

(略称：ちがさき丸ごと博物館の会)の活動

講演会『赤とんぼ』誕生の「悲話」と「秘話」& まち歩き「茅ヶ崎の大山道を歩く」 開催報告



平成27年12月1日(火)、市役所分庁舎コミュニティホールにて、ちがさき丸ごと博物館講演会「山田耕祐没後50年『赤とんぼ』誕生の「悲話」と「秘話」」が開催されました！

講師は、ちがさき丸ごとふるさと発見博物館の会の長嶺敬子さん。平成27年は茅ヶ崎に住んだ山田耕祐の没後50年にあたり、同講演は長嶺さんが、女性の視点から、『赤とんぼ』の作曲者・山田耕祐だけでなく、作詞者・三木露風の足跡や周辺を自ら巡りながら長年研究してこられた成果として、『赤とんぼ』誕生の「悲話」と「秘話」を解き明かして下さいました。

会場は満員御礼、89名のみなさんにお越しいただき、大変興味深い2時間の講演会となりました。

そして、12月4日(金)には、「茅ヶ崎の大山道を歩く～文教大生さんのガイドと行く茅ヶ崎の初冬魅力再発見～」と銘打って辻堂駅から四谷の田村通り大山道を鶴が台団地まで、大山道沿いの社寺・史跡など訪ねて歩きました。

毎年開催しているこのまち歩き企画は今回で4回目。当日は雪を頂いた富士山や大山が雄大な姿を見せる素晴らしいお天気で、ガイドの文教大の学生さん4名は菅笠に大山詣の法被スタイル、クイズやユーモアを交えた楽しいガイドに、参加者17名の皆さんと和やかな雰囲気の中に無事終了しました。

文教大学の学生さん、お疲れ様でした！

ちがさき丸ごとふるさと発見博物館って何？

茅ヶ崎市の全域を屋根も壁もない博物館と見立てて、文化、歴史、自然、産業、商業、公共施設、人材など、「このまち」らしさをもついろいろな事柄を幅広く選び出し、これらを都市資源と呼ぶことにしました。これらの都市資源を調査・研究し、それぞれがもっている意味や魅力を広く市民に周知する一方、それぞれを関連付けて散策や各種イベントなどで活用を図ることにより、茅ヶ崎を改めて知り、茅ヶ崎を愛する心を育み、ひいてはまち全体の活性化を図ろうとするものです。そして、都市資源は地域のかげがえのない宝物として、地域により保護され育てられていくことになります。住民が、自分たちの地域の未来のために、自分たちの考えと力で運営していく姿勢を特に重要視しています。

編集後記

あらためまして、新年あけましておめでとうございます。昨年は、今号の記事でも書かせていただいたとおり、熊本県や福岡県からの視察があったり、『赤とんぼ』の講演会をはじめとする各事業がおかげさまで大盛況であったり、ちがさき丸ごと博物館について、その活動のたのしさについて、多くの方に知っていただけた1年だったように思います。本年も企画展「期間限定！丸博センターへようこそ！」をはじめ、新たな企画を続々と準備していきます。本年もどうぞよろしくお願いいたします。



(愛称は「ちがさき丸ごと博物館」)



平成27年度ちがさき丸ごとふるさと発見博物館企画展

まるはく 「期間限定！丸博センターへようこそ！」

【会期】1月28日(木)～2月1日(月) 9時30分～20時30分
(最終日の入館は13時まで、14時30分終了)

【会場】茅ヶ崎市民ギャラリー4階・5階(元町1-1 ネスパ茅ヶ崎)
※駐車場はございませんので、電車やバスにてご来館ください。



市内全域を建物のない博物館に見立て、市民が住まう茅ヶ崎の都市資源を調査研究し、その魅力を発信する取り組みである、ちがさき丸ごとふるさと発見博物館事業。

市民ボランティアが中心となって、講座やまち歩きの開催、季刊誌の発行など、市民のみなさんにとっての「茅ヶ崎を知る入口」となることを目指し、今日も活動を積み重ねています。

そのような活動を、駅前に集約した「丸博センター」を、1月28日(木)から2月1日(月)までの5日間限定で実験的に開設します。

会場はJR茅ヶ崎駅からペDESTリアンデッキを通過してすぐ、「茅ヶ崎市民ギャラリー」の4階・5階。駅を降りれば、そこが「ちがさき丸ごとふるさと発見博物館」の入口です！

運営の中心となるのは、もちろん市民ボランティア！

それぞれの好きなことや得意分野を生かして、手づくりの「企画展」を組み立てます。

住まう茅ヶ崎について知って語って、知らなかった茅ヶ崎へ出かけて交流する、そんな機会に出合える場所、「期間限定！丸博センターへようこそ！」

27年度
企画展
開催趣旨と
ご挨拶



今回の企画展「期間限定！丸博センターへようこそ！」は、行政との協働により、「ちがさき丸ごとふるさと発見博物館アクションプロジェクト」の市民ボランティアが主体となって準備を進めてきました。30代から70代までの、様々なバックボーンを持つメンバーが、ほぼ毎週1回、夜に集まって「運営部会」を開きワイワイガヤガヤ相談してきました。

ちがさき丸ごとふるさと発見博物館事業は、エコミュージアムという概念に基づいています。

「博物館」や「ミュージアム」と聞くと、建物つまり「箱」を想像しがちですが、そうではなく、茅ヶ崎に存在している文化・歴史・産業・商業・公共施設、そして、人々を「都市資源」つまり収蔵物ととらえ、市民自らの手でそれらを調査研究し、つなぎ合わせ、その魅力を発信する取り組みをしています。

「ちがさき丸ごとふるさと発見博物館」は、この都市資源を活用して地元の人々の「ふるさと」意識を醸成するエコミュージアムという概念を、都会から離れた昔から変わらない風景と生活様式を色濃く残す田園地域のようなまちではなく、東京を始めとした首都圏のベッタウン的な性格を持つこの茅ヶ崎という都市に導入しています。それは日本でも大変珍しい先駆的な試みであり、私たちは「都市型エコミュージアム」と名づけています。その活動の先にあるものは、「つながり」や「豊かさ」「ソーシャルキャピタル」といった言葉で表現される価値であり、この茅ヶ崎という都市でそこへとたどり着きたいと考えています。

今回の企画展では、テーマを「市民ボランティア手づくりのエコミュージアム拠点実験」とし、1年を通じて市内全域で繰り広げられている丸ごと博物館の活動を、あえてJR茅ヶ崎駅前の市民ギャラリーという「箱」に集約し、ショーケース的に体感していただく事を試みます。

大人気の「ちがさき丸ごと博物館講座」を、「相模湾」「自転車」などをキーワードに18講座集中開催することを始め、丸博センターを出発点とした茅ヶ崎の「別荘地」「東海道」などを巡る各種まち歩きの実施、丸ごと博物館ならではの展示企画、活動紹介などを多彩に同時多発で展開いたします。

ぜひこの機会に、多くの市民のみなさんに、ちがさき丸ごとふるさと発見博物館の活動を体感していただき、住まう茅ヶ崎の魅力を再発見していただければ幸いです。

ちがさき丸ごとふるさと発見博物館アクションプロジェクト運営部会

トピックス 福岡県うきは市&熊本県人吉市 視察対応報告



平成27年11月18日(水)、熊本県人吉市議会から、市政クラブの4名の議員さんが、茅ヶ崎市を視察にいらっしゃいました。視察内容は「ちがさき丸ごとふるさと発見博物館事業」について。

事業の経緯や、昨年度好評を博した企画展「丸ごと100-茅ヶ崎を知る100の機会-展」をはじめとする「企画展」事業の方法、そして市民の反応などについてお聴きになられました。

茅ヶ崎市からは、ちがさき丸ごとふるさと発見博物館館長である社会教育課長をはじめとする担当職員と、ともに事業を支える市民ボランティアが対応させていただきました。議員さんたちからは、「市民ボランティアさんが視察の席に来ていただくことは初めてで、とても貴重な機会です」とおっしゃっていただきました。

また、これまでの制作物など、事業の成果をご覧になられ、市民ボランティアの熱意とパワーに大変感服されていました。

その翌週、11月24日(火)には、福岡県うきは市の「浮羽まるごと博物館協議会」のみなさんが、「先進事例視察研修」として、ちがさき丸ごとふるさと発見博物館の視察にいらっしゃいました。今回は、実際にうきは市でエコミュージアム



「期間限定！丸博センターへようこそ！」のねらい



建物のない博物館である「ちがさき丸ごと博物館」ですが、その「拠点機能」の必要性については、約10年前の事業開始当初から言われてきたことでした。

活動を重ねてきて、拠点のイメージが浮き彫りになってきました。それを実現してみようというのが今回の企画展=実証実験です。

- ・住まう茅ヶ崎を知る「地域学」を軸として、市民が集い、つながる場。
- ・恒常的に都市資源の調査研究を行い、その成果を発表し、ともに活動をする新たな仲間に出会える場。
- ・集う人たちが、お互いを尊重し、たのしみながら建設的に活動をする場。

そんな丸博センターを、来館者のみなさんとともに、かたちにしていけたらと思います。

【4階展示室：エコミュージアム展示】

従来型の博物館とは違う、エコミュージアムならではの、ちがさき丸ごと博物館だからこそ行う展示とは「多様なものの見方を喚起する展示?」「現地へ行って完結する展示?」「市民それぞれの宝物の展示?」「茅ヶ崎全体を集約した展示?」…?

市民ボランティアがアイデアを出し合い、悩みに悩んだ展示。想像力とあそびごころを持ってご覧になってください。

【5階創作室A：丸ごと博物館工房】

「丸博を知る16のキーワード」をテーマに、丸ごと博物館の日常的な活動そのものを「展示」します。

市民ボランティアが集い、講座やまち歩き、季刊誌の編集など、さまざまな活動が生まれる現場は、まさに「ちがさき丸ごと博物館のつくりかた」が見られる工房です。

しかしながら、調査研究、まち歩きガイド、編集者…、まだまだ人手が足りません。活動の様子を見て、気になったら、ぜひ活動に参加してみてください。



▲5階創作室BCで開催される講座のタイムスケジュールは、広報ちがさき1月15日号折り込みの「別冊ちがさき丸ごと博物館」をご覧ください。



活動を実践されているみなさんがお越しになるということで、できるだけ普通のちがさき丸ごと博物館の活動を体感していただけるような体験型の視察内容にしようとプログラムを組みました。

「住まうまちを知るたのしさ」を推進力に、いきいきと活動する市民ボランティアを中心に、一日かけて茅ヶ崎を精一杯ご案内しました。

朝、宿泊先のホテルにお迎えに上がり、「ホテルを出たら、そこがちがさき丸ごと博物館」とばかりに、いきなり「プチまち歩き」を開始!

会議室の事業説明も、「ちがさき丸ごと博物館講座(基礎編)」を下敷きに、「うきは市特別版」の講座形式で行いました。

午後はマイクロバスで海から山まで市内を縦断!ラチエン通りから見えるえぼし岩、サザンビーチ、下寺尾官衙遺跡群、腰掛神社、民俗資料館旧和田家…など、お時間の許す限り茅ヶ崎の都市資源を満喫していただき、市民ボランティアとも、たくさんの交流ができました。

「都市型エコミュージアム」として、各地から注目されはじめている、ちがさき丸ごと博物館の取り組み。

遠方より、はるばる茅ヶ崎だけを見に来てくださったみなさん、心よりありがとうございました!

